

『2024年度情報センター 自己点検評価書』

まえがき

情報センターでは、情報センター内の自己点検評価書公開(西暦の偶数年度)と、情報化評価委員会による外部評価報告書公開(同奇数年度)をそれぞれ隔年で実施している。したがって2024年度は、情報センター内の自己点検評価の年である。対象期間は、2023年度(令和5年度)から2024年度(令和6年度)にかけての2年間となる。

2023年度から2024年度にかけては、国立大学法人としての第四期中期目標・中期計画の着実な進捗が求められる期間である。さらに、2023年度からは授業実施が全面的に対面化に戻ったところであるが、それまでに電子化・遠隔化へと急激に浸透した様々なキャンパスライフスタイルも定着しており、高度にメディア利用する授業やテレワーク等への対応やさらなる変革への推進策なども歩みを止めてはならない。

本書は、情報センター教職員個々の省察も編集の主目的となるが、組織の自己点検を通じて、情報化を推進する組織としてのパフォーマンスを客観的に見ていただけるよう本書を公開するものであるため、ご意見等あれば情報センターの設置するコールセンター等にその意見を忌憚なくお寄せいただくことを歓迎する。

2025年3月31日

情報センター自己点検・評価委員会委員

松浦 健二(1号委員)

上田 哲史(2号委員)

佐野 雅彦(2号委員)

深来 孝信(2号委員)

谷岡 広樹(3号委員)

竹内 寛典(3号委員)

大谷 明子(3号委員)

林 俊和(3号委員)

篠原 佳奈(3号委員)

村瀬 勇輔(3号委員)

檜本 祥(3号委員)

八木香奈枝(3号委員)

板東孝文(3号委員)

内容

1. 概要	4
1.1 規則等	4
1.2 組織・体制(令和7年3月時点)	4
1.3 情報セキュリティ目的・目標	4
1.4 点検活動	5
1.4.1 活動方針	5
1.4.2 中期目標・中期計画	5
1.4.3 内部質保証	5
1.5 プロジェクト系業務	5
2. 情報統括部門の活動	6
2.1 目標・計画	6
2.2 業務実績のサマリ	6
2.3 自己点検評価	7
3. ICT サービス部門の活動	7
3.1 目標・計画	7
3.2 業務実績のサマリ	7
4. 事務室(学術情報部情報企画課)の活動	8
4.1 概要	8
4.2 各種会議に関する業務	8
4.3 事務系ネットワーク管理	9
4.4 事務系パソコンの運用に関する支援	9
4.4.1 事務系パソコンの導入支援	9
4.4.2 事務系パソコンのハードウェア要件見直し	9
4.4.3 設定不具合対応	9
4.5 グループウェアの運用管理	9
4.6 事務用システムに関する業務	9
4.6.1 人事給与システム	9
4.6.2 財務会計システム	10
4.6.3 文書管理・電子決裁システム	10
4.7 事務 DX 推進業務	11
5. 教員の活動に関する自己点検	12
5.1 松浦健二(教授)情報センター長	12
5.2 上田哲史(教授)副センター長, ICT サービス部門長	13
5.3 佐野雅彦(准教授)情報統括部門長	14
5.4 谷岡広樹(講師)ICT サービス部門員, 蔵本分室長(～2024年8月)	14
5.5 竹内寛典(助教)ICT サービス部門員, 蔵本分室員	15
5.6 研究業績	15
5.7 外部資金獲得	19
5.7.1 科研費	19
5.7.2 共同研究・受託研究等	20

5.8 その他の業績.....	20
5.8.1 特許等.....	20
5.8.2 受賞等.....	20

1. 概要

1.1 規則等

- (1) 情報センター規則
- (2) 情報セキュリティ管理規則
- (3) 情報センター施設管理規則
- (4) 情報センター自己点検・評価委員会規則
- (5) 情報センター情報化評価委員会規則
- (6) 情報センター利用規則
- (7) 情報セキュリティ委員会規則

1.2 組織・体制(令和7年3月時点)

- 情報センター長: 松浦健二
- 副センター長: 上田哲史
- 学術情報部長: 濱田光男

部門・室	職員	協力等
情報統括部門	佐野雅彦(部門長, 准教授) 八木香奈枝(技術専門職員) 板東孝文(技術員)	川村亜梨沙(技術員)
ICT サービス部門	上田哲史(部門長, 教授) 谷岡広樹(室員, 講師) 松浦健二(室員, 教授) 竹内寛典(室員(蔵本), 助教) 佐藤知津(技術補佐員) 契約職員 5名	臣永歩(技術員)
事務室	深来孝信(事務室長, 課長) 大谷明子(室員, 係長) 林俊和(室員, 係長) 篠原佳奈(室員, 事務職員) 村瀬勇輔(室員, 特任事務員) 樫本 祥(室員, 特任事務員) 原千賀子(室員, 事務補佐員)	※影本千鶴(室員, 事務補佐員)

※休業中

1.3 情報セキュリティ目的・目標

情報センターでは, ISMS(ISO27001)の規格に沿った運用を 13 年間実施してきた. 情報セキュリティマネジメントは, 計画段階から実施, 有効性評価等の PDCA を回すこと, 事前承認と記録といった確実性を高めることを構成員個々に意識して, 業務に取り組むことが求められる.

毎年文書化する対象として, 以下の文書化と評価および内部監査を PDCA の核に据えてメンテナンスしている.

- (1) 年間情報セキュリティ目的 2024
- (2) 年間情報セキュリティ目標・計画 2024
- (3) 管理策有効性評価表 2024

これらのうち, (1)は情報センター全体のセキュリティ目的として, 年度始に情報セキュリティ委員会で承認される文書である. その際, (2)にある部門・室単位での目標・計画も合わせて策定される. (3)はセキュリティ計画として定めた取り組みが有効に機能しているかの評価文書である.

このような基本的な枠組みは, これらの文書に基づき, 内部監査とマネジメントレビューを半年に一度, 毎年実施していることから, 堅実に実施されている. さらに, ISMS としては, 年に一度は外部監査に相当する更

新審査または経過審査を経ており、客観性も認められている。よって、組織的な情報セキュリティについては、概ね問題なく進行できていると考えられる。

1.4 点検活動

1.4.1 活動方針

情報センターの設置目的としては、規則に明記されている通り、情報戦略室の基本方針の下、情報化施策を実施するとともに、本学の教育・研究・社会貢献及び大学運営に係る情報関連業務を円滑遂行するため、情報教育支援、各部局情報化支援、情報技術に関する研究開発を実施することとされている。

大学全体の方向性に沿った情報センターの設置目的に基づく活動と、その品質確保のための内部質保証の取組が定常的な活動として実施される。これらと整合性を保ちつつ、国立大学法人としての中期目標・計画に掲げられた中の所掌の項目達成に向けた活動にも注力する。定常系と非定常系またはプロジェクト系といった軸でこれらの諸活動を俯瞰分類することも可能と思われる。以下では、中期目標・計画に関連した活動と、内部質保証としての点検の両面から重複排除せず、活動概要を述べる。

1.4.2 中期目標・中期計画

2022年度からの第四期に関しては、国立大学法人徳島大学としての、中期目標・中期計画については、下記 URL にて文部科学省から公開されている。これにしたがい、該当所掌事項に取り組んでいる。特に目標【17】に関する活動として、第四期の活動として計画より早く進捗している。

https://www.mext.go.jp/content/20220330-mxt_hojinka-000021472_67.pdf

1.4.3 内部質保証

徳島大学における ICT 環境の内部質保証については、以下に公開されている要項に沿って、年度毎の点検・評価を情報戦略室による決定の下で、協働実施している。本要項にそって改善の要否判定が行われ、適切な運用が実現されている。

https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/3/1/8/8/0/1/_/3_201912ICT.pdf

1.5 プロジェクト系業務

業務の定常化を図ることが安定的な ICT 環境の提供・運用にとって重要な方針ではあるが、時勢・時流に応じた、あるいは将来を見据えた非定常的な活動を展開していくことも、情報センターの業務・活動の両輪として重要である。以下は、2023年度～2024年度のプロジェクト系業務を整理したものである。大きな調達であったキャンパス情報基盤システムは、セキュリティと安定性を重視しつつ、構成員の利便性を高めるための機能が盛り込まれている。以下は、2年間の業務実績に関するサマリであるが、特に部局の支援と各種セミナー系を活発に展開してきた。詳細は、各部門・事務室の記載に委ねる。

- (1)統合認証ポータル運用・改修
- (2)MyPage サイト運用・拡充
- (3)無線アクセスポイント等ネットワークサービス運用
- (4)VPN サービス運用
- (5)新入生オンラインアカウント配布システム運用
- (6)チャットボット導入・運用
- (7)財務会計システム導入支援・運用支援
- (8)就業管理システム運用支援
- (9)電子決裁・文書管理システム導入・運用支援
- (10)事務部バックアップサーバ運用
- (11)学生証明書オンライン発行支援
- (12)部局運用システム導入支援
- (13)RPA を有償製品からクラウドでの無償化へ展開
- (14)Microsoft365 セミナー(2023年度3回、2024年度2回)

- (15)情報セキュリティセミナー(2023 年度 2 回, 2024 年度 2 回)
- (16)セキュリティ・ミニキャンプ開催(2023 年度)
- (17)セキュリティポリシー改訂
- (18)Starlink 体験回開催(2024 年度)
- (19)生成 AI ハンズオンセミナー(2024 年度 2 回)
- (20)医歯薬学共創プラザ設立支援・分室移転
- (21)「インターネット利用に関する意見募集」実施

2. 情報統括部門の活動

2.1 目標・計画

- (1) 情報センターISMS の推進
- (2) 徳島大学情報セキュリティポリシーの推進
- (3) 徳島大学の情報セキュリティポリシーに関する助言型内部監査の実施
- (4) 各種情報システムの調達・改善
- (5) 担当する情報システムおよび情報セキュリティの運用・管理
- (6) 学内サーバのセキュリティ診断
- (7) サイバーセキュリティ対応
- (8) セキュリティポリシー改訂
- (9) 他部局支援

2.2 業務実績のサマリ

- (1) 情報センターの ISMS 活動について更新審査および定期サーベイランス審査(2024 年 1 月 10 日から 12 日, 2025 年 1 月 16 日から 17 日)を受審し, 維持・向上の認証継続判定を受けた。情報統括部門ではこの ISMS 活動を推進している。
- (2) 情報セキュリティポリシーの教育では, 2019 年度より教職員の受講が必須となった「情報倫理」e-learning コンテンツは, 3 年連続しての 100%(母数 3000 名強)に到達した。また, 2020 年度から開始した「個人情報保護に関する自己点検」(総務部と合同)も 100%を連続達成した。今後も継続した実施を予定している。
- (3) 情報セキュリティポリシーの運用状況の確認としては, 毎年実施している「助言型内部監査を学内 11 箇所実施済みである。4 年一巡の計画である。
- (4) 対象年度調達あるいは導入等を実施した情報システムは以下の通りである。
 - ・キャンパス情報ネットワークシステム
学内の高速ネットワークを構成する主要な機器のうち, 特に, データセンター設置のコアスイッチ, ファイアウォール等が更新対象となり, 政府調達を行った。機器の更新は, 2025 年 3 月 20 日に実施し, システムの入替による安全・高速な環境を構成できた。
 - ・無線 LAN アクセスポイント
学内に展開されている無線 LAN のうち, 情報センターが管理する無線について老朽化が進んだものについて機器調達を行った。対象年度は 130 台のアクセスポイント, のほか, PoE スイッチ, コントローラを調達した。
- (5) 担当するシステムの運用・管理について
全学ファイアウォール, 基幹スイッチ・部局棟スイッチなどの基幹ネットワークの管理運用を行っている。ネットワークの大規模停止は対象年度には発生していない。また, 全学サービスにかかるサーバについても運用・管理を行っている(マイページポータル, 全学無線・VPN 認証, 全学共用プロキシサーバ, DNS サーバ, 文書共有システム, お預かりシステム, 新入生向けアカウント配布システムなど)。
- (6) 学内サーバのセキュリティ診断について
脆弱性診断ソフト「QualysGuard」を用いたセキュリティ診断を行った。事前のトラフィック集計, 各部局への問合せにより学内サーバおよびネットワーク機器の調査・特定を行った結果, 診断対象は令和 5 年度(令和 6

年 2 月実施)合計 390 台のサーバとなった。診断の結果、9 台のサーバやネットワーク機器から既知の脆弱性レベル 5(緊急)が検出されたため、各部局に緊急の対応依頼を実施した。また、それ以外のレベルの既知の脆弱性、または潜在的な脆弱性についても、対応が必要とされるものを精査し、対応依頼を実施した。

(7) サイバーセキュリティ対策について

文部科学省のサイバーセキュリティ対策基本計画の第 4 期中期計画期間の後期に向けた改訂の検討を行った。この検討に際しては、第 4 期中期計画期間の前期の評価に基づいている。

(8) セキュリティポリシー改訂

セキュリティポリシーの改訂を行った。今回の改訂で、本学では第 8 版となった。主な改訂ポイントは、令和 6 年 3 月に制定された研究データポリシーに対応する記載や、データ持ち出しに際しての細かな部分を更新したほか、字句修正等も踏まえて改訂した。改訂に際しては、情報戦略室および部局の管理者等への照会を経て慎重に行った。

(9) 他部局支援

分子酵素学研究所 A 棟のネットワーク改修の設計・構築支援を 2023 年度から実施し、2024 年度末ではほぼ終了している。また、新入生 1 年生授業支援として Web ブラウザを用いた Python や R のプログラミング環境、Jupyter hub を構築し提供している。主に情報科学入門の講義等で利用されている。

2.3 自己点検評価

上記事項において、概ね予定通りに実施された。対象年度全体としては、予定事項については概ね実施されたが、キャンパス情報基盤システムの調達業務負担が大きくなり、ポリシー見直しやサイバーセキュリティ対策等基本計画の推進に影響を与えた。

3. ICT サービス部門の活動

3.1 目標・計画

(A) 規則に定められる部門目的

- (A.1)全学的な情報基盤及び情報サービスの提供に関すること
- (A.2)全学的な情報基盤及び情報サービスの管理運用に関すること
- (A.3)各部局等における情報システムの導入支援に関すること

(B) 年間セキュリティ目標・計画

- (B.1)ISMS に関する PDCA の運用
- (B.2)AIT 運用マニュアルの見直し
- (B.3)情報資産の棚卸し
- (B.4)リスクアセスメント対応
- (B.5)有効性測定
- (B.6)蔵本分室 PDCA 運用
- (B.7)事業継続計画の改善・訓練
- (B.10)提供セキュリティソフトウェア維持・更新
- (B.11)Microsoft365 運用
- (B.12)キャンパス情報基盤システム運用保守
- (B.13)医歯薬学共創プラザ移転対応
- (B.14)「インターネット利用に関する意見募集」実施

3.2 業務実績のサマリ

(A) 規則に定められる部門目的

- ・キャンパス情報基盤システム等の全学的システムの運用保守を行っている
- ・RPA 利用推進として PowerAutomate の利用を加速した
- ・情報センターウェブサイト運用を通じて、様々な情報発信を行った

- ・多数のマニュアルを更新した
- ・クライアント向けセキュリティソフトの運用を行った
- ・学内 WiFi, VPN の更新整備を一部計画通り行った
- ・新入生向けのオンラインアカウント発行サービスを運用した
- ・デジタルサイネージを運用している
- ・個室型ワークスペースを運用している
- (B) 年間セキュリティ目標・計画
- (B.1) ISMS に関する PDCA の運用
 - ・部門運用を計画通りに進捗させた
- (B.2) AIT 運用マニュアルの見直し
 - ・随時マニュアル見直しを行った.
 - ・特にキャンパス情報基盤システム運用に伴う部分や個人PC環境面を改訂した
- (B.3) 情報資産の棚卸し
 - ・残件があり, 次年度繰越しとなっているものもあるが, 定期的な棚卸実施した
- (B.4) リスクアセスメント対応
 - ・キャンパス情報基盤システムのリスクアセスメント対応を展開している
- (B.5) 有効性測定
 - ・年 2 回の内部監査と有効性測定を実施した
- (B.6) 蔵本分室 PDCA 運用
 - ・計画通り PDCA を進捗させた
- (B.7) 事業継続計画の改善・訓練
 - ・BCP の実践として訓練を実施した
- (B.8) ISMS 境界の見直し
 - ・一部残件があるが, 見直しを行った
- (B.10) 提供セキュリティソフトウェア維持・更新
 - ・マニュアル改訂および, OS サポートステータス更新を適切に実施した
- (B.11) Microsoft 365 運用周知
 - ・MS365 利活用促進, ハンズオンセミナーを実施した
- (B.12) キャンパス情報基盤システム運用
 - ・キャンパス情報基盤システム運用に注力した
- (B.13) 医歯薬学共創プラザ移転
 - ・医歯薬学共創プラザへの蔵本分室移転を実施した
- (B.14) インターネット利用に関する意見募集
 - ・同名の情報センター独自アンケートを, 2024 年 10 月から 12 月にかけて 2 か月間実施した
 - ・457 件の回答が得られ, 情報戦略室会議, 情報化推進委員会の各会議報告を行った

4. 事務室(学術情報部情報企画課)の活動

4.1 概要

事務室は, 位置付けとして徳島大学事務組織として事務局学術情報部に配置され, 情報企画課となっており, 2021 年度までは企画運営系の 1 係体制であったが, 2022 年 4 月の組織改編により, 新たに DX 推進係を新設し, 情報センター各部門と大学全体の情報化に係る方針を共有し相互理解のもと, これまで以上に教職協働体制を強固にし, 大学の DX 推進に取り組んでいる. 情報企画課は, (課長, 係長 2 名, 係員 1 名, 特任事務員 2 名, 事務補佐員 2 名) の 8 名体制としている.

4.2 各種会議に関する業務

- ・情報戦略室会議 (18 回)
- ・情報化推進委員会 (12 回)

・事務情報化委員会(2回)
(参照:本学 HP 情報管理活用システム「情報企画課フォルダ」)

4.3 事務系ネットワーク管理

事務系ネットワークについて、IP アドレスの運用管理やネットワークスイッチの死活監視を行っている。

事務系ネットワークスイッチの老朽化を受け、2023 年度には蔵本地区で17台の事務用ネットワークスイッチをリプレースした。また、2025 年度には新蔵で 1 台の機器更新を予定している。

4.4 事務系パソコンの運用に関する支援

4.4.1 事務系パソコンの導入支援

事務系パソコンの新規導入時において、個々の業務に依存しない共通部分についての設定を支援している。2023 年度:約 118 台、2024 年度:約 107 台の設定を行った。毎年度 100 台以上の事務系パソコンの導入について設定支援をしている。

4.4.2 事務系パソコンのハードウェア要件見直し

2023 年度以降については、Windows 10 のサポート終了後(2025 年 10 月)に Windows 11 への移行を見据え、安定した動作を維持できるようハードウェア要件の見直しを行った。この対応により、2025 年度に予定している Windows 11 への移行作業が円滑に進む体制が整った。

4.4.3 設定不具合対応

事務系パソコンの動作に関する問合せの対応を行っており、事務系固有の不具合というのは少ないため ICT サービス部門と連携して対応している。内容については ICT サービス部門の業務に記すとおりである。

4.5 グループウェアの運用管理

本学事務部では、事務職員間でのコミュニケーションツールのひとつとして、2022 年 10 月にサイボウズのクラウド版 Garoon に移行した。管理者としてユーザからの問合せや要望等に対応し、より円滑なコミュニケーションツールとして活用されている。

4.6 事務用システムに関する業務

4.6.1 人事給与システム

人事給与システムは、平成24年4月に導入し、平成30年4月からはクラウドサーバ上でシステムを安定稼働できるようクラウドサーバ管理運用を行う契約を外部業者と締結している。人事課が主として利用する人事給与システムのインフラ環境整備支援、人事業務効率化を目的とする企画立案と推進、及び機能カスタマイズ支援等、システム全般の運用サポートを行っている。

以下に示す定常事務作業の他、平成30年9月にクラウド環境へのインフラ移行を全面支援し安定稼働を実現した。なお、令和3年度より、大学方針であるペーパーレス、各種法改正(働き方改革推進法等)に対応するための就労管理について検討を開始し、令和4年度末に給与明細WEB化及び就業管理システム(勤怠管理WEB化)を構築し稼働中である。また、令和7年度に機能改善のため現行のVer6からVer7へのバージョンアップを予定している。なお、業務は以下のとおりである。

□定常事務業務

- ・月次定例会
- ・システム保守状況の確認
- ・調達仕様書策定支援
- ・コールセンター窓口
- ・クライアント環境構築支援

□2023 年度,2024年度特化業務

2023年度

- ・就業管理システム(勤怠管理WEB化)稼働開始

4.6.2 財務会計システム

【導入背景・目的】

国立大学の法人化に伴い、平成16年度より企業会計原則を取り入れた国立大学法人会計基準に基づき財務諸表等の会計報告を毎事業年度作成しており、法人化以降説明責任(アカウンタビリティ)を担う財務会計機能をもつ「財務会計システム」を導入してきた。財務会計システムを更新するにあたり、現行システムの機能の維持及び安定稼働を継続することを目指しつつも、システムパフォーマンスの更なる向上や日々変化する内的・外的環境にも対応することのできるシステムである必要があり、以下の項目を目的とする。

- ・汎用性・流通性の高いパッケージシステムを採用し、経費削減を図る
- ・発生源システムにおける利便性の更なる向上
- ・他システムとのデータ連携の安定稼働
- ・処理時間の短縮と効率化に向けたシステムパフォーマンスの向上
- ・会計基準等の改訂及び組織改変への柔軟な対応

全学における会計業務の円滑な遂行と効率的な運営を図ることができるための支援を行う。システムの利用に係る事務手続きの受付、システム運用に必要な各種設定を行っている。また、日々のシステム稼働状況の確認等、システム管理を行っている。

以下に示す定常事務作業の他、令和4年から進めていた次期財務会計システムの更新作業が、計画通り終了し令和5年7月に稼働開始した。

□定常事務業務

- ・システム稼働状況の確認
- ・コールセンター窓口
- ・クライアント環境構築支援
- ・年度更新作業支援
- ・ユーザ登録作業支援

□2023 年度,2024 年度特化業務

2023年度

- GrowOne財務会計 Ver3(ニッセイコム社製) 稼働開始

4.6.3 文書管理・電子決裁システム

文書管理・電子決裁システムは、法人文書の作成、保管、保存、移管、廃棄といった法人文書のライフサイクルについて、適正な管理体制を整備することは国立大学法人の使命である社会への説明責任の観点から必要である。本学では株式会社シナジー社製「J.doc Suite」を使用していたが、令和6年3月31日に保守が終了することに伴い新システムの導入の検討を行う必要があった。令和4年度から仕様書の検討を行い令和5年度にシステムの構築作業を完了し令和6年4月1日から運用を開始するという計画であった。主にインフラ環境整備支援等を行い文書管理・電子決裁システムの主担当である総務課と連携して安定した運用を進めた。

定常事務業務

- ・月次定例会

2023 年度,2024 年度特化業務

2023年度

文書管理・電子決裁システム「e-決裁」(ユーアイシステム社製)の導入支援

2024年度

文書管理・電子決裁システム「e-決裁」(ユーアイシステム社製)の稼働後の支援

4.7 事務 DX 推進業務

徳島大学では令和4年4月の組織改編により学術情報部情報企画課 DX 推進係を新設し、教員組織である情報センターと情報企画課職員が大学全体の情報化に係る目標・方針を共有・相互理解のもと教職協働体制を構築し、大学のDX推進に取り組んでいる。

2023 年度,2024 年度特化業務

2023 年度

【ハンズオンセミナー】

包括契約を行っている Microsoft365 のアプリケーションを紹介するとともに、基礎的なRPA構築を演習形式の研修であるハンズオンセミナーにて計 2 回実施した。また、RPA による業務改善の具体的事例を紹介することで、実際の成果をイメージしやすくなり、取り組み促進のために導入事例報告会を 1 回実施した。

2023年 8月23日(水)Microsoft365 ハンズオンセミナー(Forms 基礎編)

2023年 9月 6日(水)Microsoft365 ハンズオンセミナー(Forms と PowerAutomate の連携編)

2023年12月13日(水)Microsoft365 ハンズオンセミナー(導入事例報告会)

【電子申請・RPA の推進】

Microsoft365 のアプリケーション PowerAutomate 等により16件の業務について電子申請・RPA 化を実施した。

2024 年度

【ハンズオンセミナー】

昨年度に引き続き包括契約を行っている Microsoft365 のアプリケーションのハンズオンセミナーを2回実施した。1回目はRPAの紹介並びに基礎的な構築について実施し2回目により高度なRPA構築を目指す教職員向けに難易度の異なるセミナーを実施し参加者のニーズに沿ったセミナーとした。

更に今年度はザイン型 AI 教育研究センターとの共催にて初の生成 AI ハンズオンセミナーを常三島地区と蔵本地区にて開催した。多様な技術についてのセミナーを企画することにより、教職員のIT知識の底上げ及び業務効率化の促進を目的とした。

2024年 8月21日(水)Microsoft365 第1回ハンズオンセミナー(PowerAutomate 基礎編)

2024年 9月19日(木)Microsoft365 第2回ハンズオンセミナー(OfficeScript 挑戦編)

2024年11月12日(火)生成AIハンズオンセミナー(常三島地区)

2024年12月 5日(木)生成AIハンズオンセミナー(蔵本地区)

【オンライン相談窓口】

学生相談窓口業務を24時間365日対応可能なチャットボット機能を用いたオンライン相談窓口を導入して窓口業務の負担軽減を行う。2024年度には学生支援課をはじめ、テスト運用を行い2025年度には各学部窓口等に順次導入予定である。

【電子申請・RPA の推進】

Microsoft365 のアプリケーション PowerAutomate 等により12件の業務について電子申請・RPA 化を実施した。

5. 教員の活動に関する自己点検

5.1 松浦健二(教授) 情報センター長

・役職等: 情報担当副理事, CIO 補佐/CISO 補佐, 全学情報セキュリティ責任者, 情報化推進委員会委員長

・兼務等: 大学院創成科学研究科, 理工学部

・専門分野: マルチメディア応用, 学習支援システム

・活動:

(a) 教育に関する活動

- ・情報セキュリティ(理工学部)
- ・情報セキュリティシステム論(大学院)
- ・理工学概論(理工学部)
- ・知能情報概論(理工学部)
- ・情報科学入門(教養教育)
- ・情報基盤システム特論(大学院)
- ・知能情報システム設計特論(大学院)

(b) 学内委員等の活動

- ・情報化推進委員会委員(2010年4月～)
- ・教育研究評議会オブザーバ(2020年4月～)
- ・大学教育委員会(2020年4月～)
- ・教育の質に関する専門委員会委員(2020年4月1～)
- ・情報戦略室室員(2019年4月1日～)
- ・技術支援部運営委員会委員・アドバイザー(2019年4月1日～)
- ・自己点検・評価委員会委員(2018年4月1日～)
- ・情報公開・個人情報保護委員会委員(2020年4月～)
- ・データサイエンス教育検討WG委員(2023年4月～)
- ・情報センター(情報セキュリティ委員会委員, 自己点検・評価委員会委員)

(c) 学会等の活動

- ・教育システム情報学会(理事 [2017年6月～2025年6月], 産学連携委員会シニア委員 [2023年9月～2025年6月] [研究会委員会委員 [2018年5月～2025年6月], 第49回・第50回全国大会実行委員会奨励賞幹事 [2024年10月～2026年6月], 学会誌編集委員会委員長 [2023年7月～2025年6月], 研究倫理委員会委員・倫理綱領検討委員会委員 [2023年7月～2025年6月])
- ・情報処理学会(学会誌編集委員 [2021年4月～])
- ・電子情報通信学会会員
- ・日本教育工学会会員
- ・社団法人 人工知能学会会員
- ・学習分析学会会員

(d) その他の活動

- ・美馬市 DX 推進アドバイザー ([2022年5月～])
- ・ラーニングイノベーションコンソシアム(ラーニングイノベーションコンソシアム理事 [2022年6月～])
- ・徳島県(徳島県警・ネットウォッチャー [2012年1月～], 徳島県サイバーテロ対策協議会 [2020年4月～])

5.2 上田哲史(教授)副センター長, ICT サービス部門長

- ・上記以外の役職等: 広報担当副理事, 附属図書館副館長
- ・兼務等: 大学院創成科学研究科, 理工学部
- ・専門分野: 非線形工学, 非線形回路工学, 非線形システム工学, フィールド情報学
- ・活動:

(e) 教育に関する活動

- ・情報セキュリティシステム論 (大学院)
- ・理工学概論 (理工学部)
- ・知能情報概論 (理工学部)
- ・情報基盤システム特論 (大学院)
- ・情報科学入門 (教養教育)
- ・技術英語入門 (理工学部)
- ・複雑系システム工学特論 (大学院)
- ・電子回路 (理工学部)
- ・電気回路及び演習 (理工学部)
- ・非線形システム設計特論 (大学院)

(f) 学内委員等の活動

- ・情報戦略室室員 (2010年7月～)
- ・情報化推進委員会委員 (2010年8月～)
- ・広報戦略室室員 (2012年7月～)
- ・教員業績審査委員会委員 (2020年4月～)
- ・附属図書館運営委員会委員 (2020年4月～)
- ・教養教育実務者連絡会委員 (2024年4月～)
- ・社会産業理工学研究部研究推進委員会委員 (2020年4月～2024年3月)
- ・情報センター (情報セキュリティ委員会委員, 自己点検・評価委員会委員)

(g) 学会等の活動

- ・電子情報通信学会 (複雑コミュニケーションサイエンス時限研究専門委員会 委員 [2015年4月～2023年6月], 編集幹事, NOLTA, IEICE [2013年5月～2023年5月], フェロー [2021年3月～], ESS/NLS フェロー推薦委員会委員 [2021年5月～2023年4月])
- ・IEEE (Past Chair, Shikoku Section [2023年1月～2024年12月])
- ・情報処理学会会員
- ・計測自動制御学会会員
- ・信号処理学会会員

(h) その他の活動

- ・徳島大学工業会 (副理事長 [2022年5月～2024年5月])
- ・
- ・東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構 (連携研究員 [2021年4月～2023年3月])
- ・
- ・愛媛大学 (リサーチユニットアドバイザーボード 委員 [2022年4月～2024年3月])
- ・大学 ICT 推進協議会 (理事 [2017年5月～2021年5月], 広報委員会委員 [2021年9月～2025年3月], 論文誌編集委員会編集委員長 [2021年10月～2025年3月])
- ・国立大学法人情報系センター協議会 (事務局長 [2020年7月～2023年6月])
- ・e とくしま推進財団理事 (2018年9月～2023年3月)
- ・徳島県 (自治研修センター・情報技術支援講座 [2011年10月～], 徳島県警・ネットウォッチャー [2012年1月～], 徳島県医療ビッグデータ分析システム構築業務委託事業者選定委員会委員 [2015年2月～], 徳島県地域医療総合情報連携システム検討会委員 [2015年3月～], 徳島県デ

ータ利活用推進会議委員 [2015年10月～2023年10月], 徳島県情報セキュリティアドバイザー [2016年4月～2024年3月],)

5.3 佐野雅彦(准教授)情報統括部門長

- ・兼務等: 大学院創成科学研究科, 理工学部
- ・専門分野: 計算機アーキテクチャ, インターネット, 情報セキュリティ
- ・活動:

- (a) 教育に関する活動
 - ・STEM 演習 (学部)
 - ・コンピュータアーキテクチャ (理工学部)
 - ・システム設計及び実験 (理工学部)
 - ・理工学概論 (理工学部)
 - ・知能情報概論 (理工学部)
 - ・並列・分散処理システム設計特論 (大学院)
 - ・情報セキュリティシステム論 (大学院)
 - ・情報基盤システム特論 (大学院)
 - ・情報科学入門 (教養教育)
 - ・知能情報システム工学輪講及び演習 (大学院)
 - ・知能情報システム特別輪講 (大学院)
- (b) 学内委員等の活動
 - ・情報セキュリティ管理者 (2010年4月～)
 - ・基幹情報セキュリティ管理者 (2018年4月～)
 - ・情報化推進委員会委員 (2010年8月～)
 - ・大学教育研究ジャーナル編集委員会委員 (2021年4月～)
 - ・社会産業理工学研究部研究推進委員会委員 (2024年4月～)
 - ・情報科学入門検討WG委員 (2023年4月～)
 - ・情報センター (情報セキュリティ委員会委員, 自己点検・評価委員会委員)
- (c) 学会等の活動
 - ・情報処理学会会員
 - ・電子情報通信学会会員
 - ・IEEE 会員
- (d) その他の活動
 - ・徳島県警・ネットウォッチャー (2012年1月～)
 - ・徳島県情報セキュリティアドバイザー (2016年4月～)
 - ・徳島県立二十一世紀館協議会委員 (2019年4月～2025年3月)

5.4 谷岡広樹(講師)ICT サービス部門員, 蔵本分室長(～2024年8月)

- ・役職等: デザイン型 AI 教育研究センター・AI 社会実装部門長
- ・兼務等: 大学院創成科学研究科, 理工学部
- ・専門分野: 情報セキュリティ, 情報検索, 機械学習, 自然言語処理, スポーツ科学, 医療情報処理学
- ・活動:

- (a) 教育に関する活動
 - ・情報科学入門 (教養教育)
 - ・理工学概論 (理工学部)
 - ・医療情報処理学 (歯学部)
 - ・ソフトウェア設計及び実験 (理工学部)
 - ・情報セキュリティシステム論 (大学院)

- データサイエンス(大学院)
- 知能情報システム工学輪講及び演習(大学院)
- (b) 学内委員等の活動
 - 情報化推進委員会委員(2016年4月～)
 - 教養教育実務者連絡会委員(2021年4月～2024年3月)
 - 南海トラフ地震対策委員会委員(2021年4月～)
 - 情報センター(情報セキュリティ委員会委員, 自己点検・評価委員会委員)
- (c) 学会等の活動
 - 情報処理学会(会員 [2016年4月～])
 - 社団法人 人工知能学会(会員 [2016年4月～])
 - 言語処理学会(会員 [2017年4月～])
 - Association for Computing Machinery(会員 [2016年4月～])
 - IEEE(会員 [2016年4月～])
 - 日本医療情報学会(会員 [2017年4月～])
 - 教育システム情報学会(会員 [2018年7月～])
- (d) その他の活動
 - コーダー道場徳島(代表 [2017年12月～])
 - 消費者庁新未来創造戦略本部国際消費者政策研究センター(客員主任研究官 [2020年12月～])

5.5 竹内寛典(助教)ICT サービス部門員, 蔵本分室員

•専門分野:

•活動:

- (a) 教育に関する活動
 - 情報科学入門(教養教育)
- (b) 学内委員等の活動
 - 高等教育研究センターICT活用教育部門会議委員(2021年4月～)
 - リカレント大学院設置準備委員会委員(2022年4月～)
 - 情報化推進委員会委員(2021年11月～)
 - 大学教育研究ジャーナル編集委員会委員(2024年4月～)
 - 情報センター(情報セキュリティ委員会委員, 自己点検・評価委員会委員)
- (c) 学会等の活動
 - 情報処理学会会員
 - 教育システム情報学会会員
- (d) その他の活動

5.6 研究業績

【学術論文】12件

- [1] Hironori Takeuchi, Kenji Matsuura, Tetsushi Ueta and Tomohito Wada : Development of a Support System for Recalling 3D Vision from a 2D Plane, *Journal of Educational Multimedia and Hypermedia*, Vol.32, No.1, 5-34, 2025.
- [2] Michiru Katayama and Tetsushi Ueta : Reversal-time dynamics of two-dimensional non-autonomous systems, *Nonlinear Theory and Its Applications*, IEICE, Vol.E16-N, No.1, 147-156, 2025.
- [3] Michiru Katayama, Kenji Ikeda and Tetsushi Ueta : Stabilization of laminars in chaos intermittency, *International Journal of Bifurcation and Chaos*, Vol.34, No.2, 2450024-1-2450024-14, 2024.
- [4] Seiya Amoh, Tetsushi Ueta and Hiroshi Kawakami : Transient Responses to Relaxation Oscillations in Multivibrators, *IEEE Access*, Vol.12, 471-482, 2024.

- [5] 柏原 昭博, 齊藤 玲, 松浦 健二, 戸井 健夫, 栗田 弦太 : 交通事故の適応的な擬似体験のための運転シナリオ制御, *教育システム情報学会誌*, Vol.41, No.3, 210-223, 2024 年.
- [6] Yuu Miino and Tetsushi Ueta : Structurally unstable synchronization and border-collision bifurcations in the twocoupled Izhikevich neuron model, *International Journal of Bifurcation and Chaos*, Vol.33, No.16, 2330040, 2023.
- [7] Masaki Yoshikawa, Kentaro Ono and Tetsushi Ueta : Bifurcations in a forced Wilson-Cowan neuron pair, *Nonlinear Theory and Its Applications*, IEICE, Vol.E14-N, No.2, 366-377, 2023.
- [8] Kenji Matsuura, Hiroki Tanioka, Stephen Karungaru, Tomohito Wada and Naka Gotoda : Double-sided design for reinforcing private training of basketball with an advanced imagery opponent, *International Journal of Learning Technologies and Learning Environments*, Vol.6, No.1, 18pgs, 2023.
- [9] 竹内 寛典, 二神 杏太, 松浦 健二 : HTTPS リクエスト情報に基づくユーザエージェント非依存の新旧 OS 推定の試み, *学術情報処理研究*, No.27, 106-111, 2023 年.
- [10] 谷岡 広樹, 佐藤 充宏, 柘植 竜治 : サッカースクールにおける楽しさに関するアンケート分析と因果探索, *情報処理学会論文誌 デジタルプラクティス*, Vol.4, No.3, 74-87, 2023 年.
- [11] 谷岡 広樹, 徳永 欽也, 徳永 美和子, 伊藤 友基, 金子 時佳, 宮本 麗子, 小早川 優, 小林 なずな, 大原 海里 : PIO-NET を利用した消費者問題の傾向分析 ~テキストマイニングを用いた時系列データのトピック比較~, *消費者庁新未来創造戦略本部国際消費者政策研究センター リサーチ・ディスカッション・ペーパー*, 2023 年.
- [12] Hiroki Tanioka, Mitsuhiro Sato and Ryuji Tsuge : Correlation Analysis between Impressions of Soccer School and Moving Speed in Elementary School Children, *Information Engineering Express*, Vol.9, No.2, 1-11, 2023.

【解説記事】2 件

- [13] Atsuo Maki, Masahito Sakai and Tetsushi Ueta : Review of the analytical prediction method of surfing threshold in following sea, and its relation to IMO second-generation intact stability criteria, *Nonlinear Theory and Its Applications*, IEICE, Vol.15, No.3, 588-617, Jul. 2024.
- [14] 瀬田 和久, 大谷 卓史, 國近 秀信, 國宗 永佳, 小西 達裕, 中西 通雄, 松浦 健二, 光原 弘幸, 渡辺 博芳 : 教育システム情報学会における倫理綱領の制定, *教育システム情報学会誌*, Vol.41, No.4, 283-292, 2024 年 10 月.

【国際会議】13 件

- [15] Shota Takagi, Kenji Matsuura and Hironori Takeuchi : Support for learning gaze-trend in basketball using MR environment, 19th International Conference on Ubiquitous Information Management and Communication, 6pgs, Bangkok, Thailand, Jan. 2025.
- [16] Hiroki Tanioka, Tetsushi Ueta and Masahiko Sano : Toward a Dialogue System Using a Large Language Model to Recognize User Emotions with a Camera, The 1st InterAI: Interactive AI for Human-Centered Robotics workshop in conjunction with IEEE Ro-MAN 2024, Pasadona, LA, USA, Aug. 2024.
- [17] Kenji Matsuura, Hironori Takeuchi, Kazuki Urushihara, Hiroki Tanioka, Stephen Karungaru and Tomohito Wada : Multiplayer Tracking with Diagonal Video to Support Basketball Tactical Learning, 18th International Conference on Ubiquitous Information Management and Communication, 5pgs, Kuala Lumpur, Malaysia, Jan. 2024.
- [18] Taketo Shibasaki, Kenji Matsuura, Hironori Takeuchi and Tetsushi Ueta : Visualization for easier recognition of low-risk and successful passes in a Basketball match, *IJAI Letters on Informatics and Interdisciplinary Research*, Vol.5, 1-8, Takamatsu, Sep. 2024.
- [19] Hiroki Tanioka, Tsuyoshi Miura, Kenji Matsuura and Stephen Karungaru : Development of semi-automatic image annotation using object recognition, *Proceedings of IJAI-AAI2023*, Koriyama, Jul. 2023.

- [20] Kenji Matsuura, Kohta Jobe, Hiroki Tanioka, Hironori Takeuchi and Tetsushi Ueta : Performed-Tactics Detection of a Basketball Match using Multi-Object Tracking Technology Applicable for a Movie, Elizabeth Langran (Ed.), Proceedings of Society for Information Technology & Teacher Education International Conference, 676-680, New Orleans, LA, US, Mar. 2023.
- [21] Michiru Katayama, Kenji Ikeda and Tetsushi Ueta : Laminar stabilization control in chaos intermittency, Proc. NOLTA2023, 17-20, Catania, Sep. 2023.
- [22] Seiya Amoh and Tetsushi Ueta : Design and Development of Bifurcation Analysis Software Using Python, Proc. NOLTA2023, 699-702, Catania, Sep. 2023.
- [23] Seiya Amoh and Tetsushi Ueta : Multivibrator with Slow-Fast Dynamics, Proc. NOLTA2023, 13-16, Catania, Sep. 2023.
- [24] Stephen Karungaru, Kenji Matsuura and Hiroki Tanioka : Basketball Players Identification and Tracking using a Single Fixed Camera, 17th International Conference on Signal Image Technology & Internet based Systems, 342-347, Bangkok, Nov. 2023.
- [25] Taisei Matsuo, Kenji Matsuura and Hironori Takeuchi : Awareness and learning for initial configuration of an webserver, 27th International Conference in Knowledge Based and Intelligent Information & Engineering Systems - KES2023, Vol.225, 2516-2525, Athens, Greece, Sep. 2023.
- [26] Tetsushi Ueta : Python Expressions of Variational Equations, Proc. NOLTA2023, 663-666, Catania, Sep. 2023.
- [27] Yuri Lucas Direbieski, Hiroki Tanioka, Kenji Matsuura, Hironori Takeuchi, Masahiko Sano and Tetsushi Ueta : Security Impact Analysis of Degree of Field Extension in Lattice Attacks on Ring-LWE Problem, COMPSAC 2023 Workshop: The 1st IEEE International Workshop on Data Science & Machine Learning for Cybersecurity, IoT & Digital Forensics (DSML), 1441-1446, Turin, Jun. 2023.

【全国大会・研究会等】40 件

- [28] 藤本進太郎, 伊藤大輔, 上田哲史: シルニコフ分岐の数値解析について ~ホモクリニック軌道としての多様体接続関係~, 信学技報, vol. 124, no. 432, NLP2024-133, pp. 126-131, 2025 年 3 月.
- [29] 柴崎 剛人, 松浦 健二, 竹内 寛典: パス可能領域の可視化によるバスケットボール初学者の状況判断力向上支援, 情報処理学会第 87 回全国大会講演論文集, 2025 年 3 月.
- [30] 高木 翔大, 松浦 健二, 竹内 寛典: バスケットボール初学者を対象とした注視・注意技能向上のための MR 援用メタ認知支援システム, 情報処理学会第 87 回全国大会講演論文集, 2025 年 3 月.
- [31] 村田一馬, 柴崎 剛人, 松浦 健二, 竹内 寛典: スペーシングに基づくシュート判断の学習環境, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2025 年 3 月.
- [32] 根本聖, 松浦 健二, 竹内 寛典: バスケットボールにおけるスクリーンプレイ発動のための試行錯誤学習環境, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2025 年 3 月.
- [33] 下村 幸輝, 竹内 寛典, 松浦 健二, 柏原 昭博, 村上 遼: 鉄道車両運転における探索的注視行動に対するリアルタイムフィードバック, 教育システム情報学会 2024 年度第 4 回研究会, Vol.39, No.4, 8-11, 2024 年 11 月.
- [34] 藤本 進太郎, 上田 哲史: 3 次元自律系におけるシルニコフ分岐, 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会講演論文集, No.1-23, 23, 2024 年 9 月.
- [35] 松浦 健二: 学会誌編集活動を通じた学術 コミュニティにおける往還促進, 日本看護学教育学会第 35 回学術集会, 2024 年 8 月.
- [36] 柴崎 剛人, 松浦 健二, 竹内 寛典, 上田 哲史: バスケットボール初学者への低リスクパス学習からの展開考察, 教育システム情報学会 2024 年全国大会講演論文集, 31-32, 2024 年 8 月.
- [37] 松浦 健二: 組織のミッションに照らした生成 AI との向き合い方を考える, 大学 ICT 推進協議会 EdTech 部会第 19 回研究会, 2024 年 8 月.
- [38] 松尾 泰成, 松浦 健二, 竹内 寛典, 佐野 雅彦: Web サーバのアクセス制限設定における論理構造からの学習, 教育システム情報学会 2024 年全国大会講演論文集, 69-70, 2024 年 8 月.

- [39] 竹内 寛典, 松浦 健二: トレース課題における誤りの段階的学習支援—生成 AI を活用した誤り箇所特定を応用して—, 教育システム情報学会 2024 年全国大会講演論文集, 269-270, 2024 年 8 月.
- [40] 高木 翔大, 松浦 健二, 竹内 寛典: MR デバイスを活用したバスケットボールの注視動向の学習支援, 教育システム情報学会 2024 年全国大会講演論文集, 65-66, 2024 年 8 月.
- [41] 河原 寛治, 谷岡 広樹, 上田 哲史, 殖栗 正登: NPB と MLB における打者の抑え方の比較, --- データに基づく投球戦術の分析 ---, 情報処理学会研究報告, Vol.2024-SI-1, No.36, 1-2, 2024 年 6 月.
- [42] 齊藤 雅門, 上田 哲史: 電磁誘導による影響を鑑みた Hindmarsh-Rose ニューロンモデルの分岐解析, 電子情報通信学会技術報告, Vol.NLP2024, No.2, 7-10, 2024 年 5 月.
- [43] 河原 寛治, 谷岡 広樹: 打者を抑えるために必要な投手の特徴量についての研究, スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会, Vol.10, 70-73, 東京, 2024 年 3 月.
- [44] 柴崎 剛人, 松浦 健二, 竹内 寛典, 小野 健太郎: バスケットボールの低リスクパス領域把握 に関する初学者支援, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2pgs, 2024 年 3 月.
- [45] 松尾 泰成, 松浦 健二, 竹内 寛典, 佐野 雅彦: 論理構造に着目した Web サーバのアクセス制御設定の学習支援, 情報処理学会研究報告, Vol.2024-CLE-42, No.16, 7pgs, 2024 年 3 月.
- [46] 山田 健斗, 竹内 寛典, 松浦 健二, 柏原 昭博, 村上 遼: 鉄道車両運転における視線のホームポジション学習支援, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2pgs, 2024 年 3 月.
- [47] 矢代 涼, 松浦 健二, 竹内 寛典: 生成 AI を活用したデバッグ機構を通じて 誤りに気づかせるコーディング学習支援環境, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2pgs, 2024 年 3 月.
- [48] 漆原 和輝, 松浦 健二, 竹内 寛典, 和田 智仁: プレイヤー検出による実映像からの 上面図アニメーション生成, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2pgs, 2024 年 3 月.
- [49] 高木 翔大, 松浦 健二, 竹内 寛典: MR 環境を用いたバスケットボールの注視動向の学習支援, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2pgs, 2024 年 3 月.
- [50] 福本 小夏, 佐野 雅彦: 縮小画像による研究成果物分類手法, 情報処理学会全国大会講演論文集, Vol.5ZG-06, No.4, 491-492, 2024 年 3 月.
- [51] 吉川 聖輝, 天羽 晟矢, 上田 哲史: 3 個の Wilson-Cowan ニューロンモデルの分岐, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.89, 30-33, 2024 年 1 月.
- [52] 天羽 晟矢, 上田 哲史: 区分定数特性をもつ理想オペアンプを用いた マルチバイブレータのカナール解, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.106, 106-109, 2024 年 1 月.
- [53] 片山 充二, 上田 哲史: 2 次元非自律系の逆時間応答・分岐について, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.96, 66-69, 2024 年 1 月.
- [54] 石垣 龍人, 上田 哲史: 3 次元自律系における 2 次元平衡点安定多様体の視覚化, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.121, 174-177, 2024 年 1 月.
- [55] 佐野 雅彦: A-Frame を用いた ISMS におけるリスクアセスメント体験, 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会講演論文集, 229, 2023 年 9 月.
- [56] 佐野 雅彦: 学部新生を対象とした JupyterHub 環境の構築, 学術情報処理研究集会, 70-76, 2023 年 9 月.
- [57] 石垣 龍人, 上田 哲史: Basin boundary 構造変化の 3 次元視覚化, 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会講演論文集, No.1-3, 42, 2023 年 9 月.
- [58] 藤本 進太郎, 上田 哲史: ハミルトン力学系を用いたカオス暗号, 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会講演論文集, No.16-1, 215, 2023 年 9 月.
- [59] 齊藤 雅門, 天羽 晟矢, 上田 哲史: 電磁誘導 Hindmarsh-Rose モデルの分岐, 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会講演論文集, No.1-4, 43, 2023 年 9 月.
- [60] 松浦 健二, 矢代 涼, 竹内 寛典: 対話の不確実性に鑑みた学習支援環境の設計初期検討, 教育システム情報学会 2023 年全国大会講演論文集, 215-216, 2023 年 8 月.
- [61] 竹内 寛典, 小野 健太郎, 松浦 健二, 上田 哲史: 数理モデルを応用した戦術学習支援システム設計の検討, 教育システム情報学会 2023 年全国大会講演論文集, 225-226, 2023 年 8 月.

- [62] 天羽 晟矢, 上田 哲史: マルチバイブレータにおけるカナル爆発現象とその実回路応答, NOLTA ソサイエティ大会, No.NLS-31, 2023 年 6 月.
- [63] 天羽 晟矢, 上田 哲史: 遅速力学系としてのマルチバイブレータ, --- カナル爆発現象とその回路応答 ---, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.27, 61-64, 2023 年 6 月.
- [64] 張 全凱, 上田 哲史: 生物スイッチの数理モデルにおける分岐現象解析, NOLTA ソサイエティ大会, No.NLS-4, 2023 年 6 月.
- [65] 張 全凱, 上田 哲史: 生物スイッチの数理モデルにおける分岐現象解析とシミュレーション, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.23, 45-48, 2023 年 6 月.
- [66] 片山 充二, 上田 哲史: 間欠性カオスのラムナーを微小制御量で安定化させる, NOLTA ソサイエティ大会, No.NLS-21, 2023 年 6 月.
- [67] 片山 充二, 池田 建司, 上田 哲史: 間欠性カオスにおけるラムナー安定化制御, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2023, No.28, 65-68, 2023 年 6 月.

表 1 研究者毎の業績数

名前	数	Name	Number of items	Total
上田哲史	18	Tetsushi Ueta	15	33
松浦健二	22	Kenji Matsuura	10	32
佐野雅彦	5	Masahiko Sano	2	7
谷岡広樹	4	Hiroki Tanioka	8	12
竹内寛典	18	Hironori Takeuchi	7	25

表 2 年度別・カテゴリ別の業績インデクス

年	RC	PR	LT	IC	DC・WS	計
R5		[6][7][8][9] [10][11][12]		[19][20][21][22] [23][24][25][26] [27]	[43][44][45][46][47][48][49][50][51][52][53] [54][55][56][57][58][59][60][61][62][63][64] [65][66][67]	41
R6	[13] [14]	[1][2][3][4] [5]		[15][16][17][18]	[28][29][30][31][32][33][34][35][36][37][38] [39][40][41][42]	26
計	2	12	0	13	40	67

RC:総説・解説, PR:論文, LT:レター, IC:国際会議, DC:国内会議, WS:研究会

5.7 外部資金獲得

5.7.1 科研費

- (1) 科研費基盤 C, 18K11572 (2018.4~2023.3) ※2024 年度まで延長
 課題名: 持続的研究の効率化を支援するシステムの研究
 研究代表者: 佐野雅彦
 研究分担者: 上田哲史, 松浦健二, 大平健司, 谷岡広樹
- (2) 科研費基盤 C, 21K04109 (2021.4~2024.3)
 課題名: 多関節ロボットのカオスから自然動作を抽出し安定化する; 分岐理論の援用
 研究代表者: 上田哲史
 研究分担者: 美井野優, 伊藤大輔
- (3) 科研費基盤 C, 22K12314 (2022.4~2025.3)
 課題名: データサイエンスに基づくチームスポーツ戦術モデルとスキル学習支援
 研究代表者: 松浦健二
 研究分担者: 上田哲史, 竹内寛典, 和田智仁

- (4) 科研費基盤 C, 22K12293 (2022.4~2027.3)
課題名: マルチオブジェクトトラッキングによるパフォーマンス分析のための可視化システム
研究代表者: 谷岡広樹
研究分担者: 松浦健二, カルンガルステファン

5.7.2 共同研究・受託研究等

- (1) (共同研究) 運転技能高度化の支援に関する研究 (松浦健二, 竹内寛典, 電気通信大学, 三菱プレシジョン)
- (2) (共同研究) データに基づいた指導とコンピテンシーの育成に関する研究 (谷岡広樹, 佐藤充宏, 徳島ヴォルティス)
- (3) (共同研究) 遅速力学系モデリングによる状態遷移と分岐 (上田哲史, 内閣府/ JST ムーンショット目標 2(祖父江元 PD)「2050 年までに, 超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現」合原ムーンショットプロジェクト「複雑臓器制御系の数理的包括理解と超早期精密医療への挑戦」)

5.8 その他の業績

5.8.1 特許等

- (1) 特願 2020-189182 (2020 年 11 月), 特開 2022-078483 (2020 年 5 月), 特許第 7394294 号 (2023 年 11 月), 谷岡広樹ほか, 日報管理装置およびコンピュータプログラム
- (2) 特願 2 件 (2025 年 3 月), 松浦健二ほか

5.8.2 受賞等

- (1) 全国大会奨励賞 (教育システム情報学会) 竹内寛典ほか, 2023.8
- (2) CLE 研究会学生奨励賞 (情報処理学会 CLE 研究会) 松尾泰成ほか, 2024.3
- (2) 2023 年度 JSiSE 学生研究発表会優秀賞 (教育システム情報学会) 山田健斗ほか, 2024.3
- (3) 2024 年度 JSiSE 学生研究発表会優秀賞 (教育システム情報学会) 村田一真ほか, 2025.3

あとがき

長年大学にいますと、学生の方々の明るい笑顔や闊歩を見ては元気を分けてもらえる役得がある。キャンパスは 2019 年度以前よりも活気づいているように感じられる。キャンパスに来て学ぶことが楽しいと思っ
て自発的にきている学生が多ければと願う一方で、各授業の出席状況把握が以前よりも厳しく定められているという制度的なことによる側面もあるのかもしれない。一方、情報センターとしての観点からは、大学内の無線 LAN のインフラにも影響を考えねばならない状況であり、本学は同規模大学の平均的な設置台数よりもやや多く設置しているにも関わらず、接続困難な状況や接続後に接続維持が困難な状況も一部のアクセスポイント設置個所では見られ、改善を求められてもいる。ご不便をおかけしているとも思うところで、それには予算的措置が必須であるため、大学全体から見た優先度を大学としてどう考えるか、全学的な議論を要するところである。予算といえば、為替レートの問題や、労働賃金、半導体関連産業の動向、物価高がかなり深刻であり、当初計画を情報施策だけでなく従来の発想での計画がとん挫するリスクはどのような事業にも生じている。学習スタイル、研究スタイルの見直しが必要で、情報インフラとしてそこに何が貢献できるかが大学の浮沈にも係るポイントともいえる。そのため、我々組織一
同一丸となってそこに切り進んでいく姿勢が求められるところである。構成員一人一人の需要に全て応
じることは適わないまでも、組織としての研究、教育、社会貢献、組織運営へ貢献できる情報環境の持
続的改善を今後も一層進めていきたいと考えている。

2025 年 3 月 31 日
自己点検評価委員長
松浦健二